長洲町立長洲小学校　校長便り　No.４９

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和４年１１月１４日(月)

雑感

先日、最初の教え子達との食事の会が催された。とても楽しい会だった。この気持ちは教師にしか味わえないものだ。そして、私自身の勉強の場でもある。何故なら、教育現場にしかないため他の職種や組織についての情報が乏しいからだ。そして、先生、先生と持て囃されるものだからすっかり良い気になって失敗することも多い。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」でいきたいものだ。

この子達を担任させて頂いたのは平成元年度、今から３４年前のことだ。実際に３４年振りに会った子もいた。それぞれに色々な経験をしてきたようだ。彼らの経験を聞いていると、私が経験してきたことがちっぽけに感じてしまう。「愚痴など言わずがんばらにゃん！」と、本気で思ってしまう。この時から、私の教え子達は親しみを込めてこう呼んでいる。「澤田組」

さて、教師という職業は憧れで繋いでいくという言葉を発した人がいる。自分が憧れの存在だったかは別として、教え子達は口を揃えてこう言っている。「あの時は楽しかった。」今でも私は自戒の意味で思う。「自分は子供達に楽しい時間を提供できているだろうか。」「居場所を提供できているだろうか。」それが出来なくなった時が、教師を辞めなければならない時だろう。

経験則⑥「本当の友だちとは」#2

どんなに永く会っていなくても、すぐに打ち解けて何でも話せる親友がいますね。私の親友もそうです。１年ぶりの飲み会であっても、話題は充実していた青春時代に戻ります。それは何故なのでしょう。

「何事にも全力でぶつかり、必死で向き合い、遠慮などしなかったから。」この感覚は、つるんでいた人にはわからないと思います。私には２人の親友がいると書きましたが、この２人とは本当にぶつかり合ったと思います。小学校の時のケンカも然り、野球も然り、中学時代の学習も然り、高校大学時代の進路選択も然り、社会人となって仕事論を戦わせる時も然り、家族観や人生観を戦わせることも然り、色々な場面で気持ちをぶつけ合ってきましたし、今後もそうなるでしょう。この２人と話をする時は、相手を非難することも多いです。ちょっとでも相手に嫌われると思うようなことは言わないおこう…ではなく、私たちはその逆を行きます。嫌われようが何だろうが思ったことを言い合い、本音で議論します。年に数回、お酒を飲みながらの話ではありますが、帰りは「またな。」と別れていきます。

そう言えば、中学時代こんなことがありました。確か３年の時の２学期期末テストの時でした。ある生徒がカンニングをしました。その時、私も軽い気持ちで答えを仲間に見せてしまいました。テストが終わり、クラスの優等生のＭ子さんが黒板の前に立ち「カンニングはいけないと思います！」と叫んだのです。何が起こったのか私はしばらく理解できませんでした。その後の休み時間にこんな会話がなされていました。

Ａ子「さっきのＭ子の行動、どう思う？　チクるかもよ。」

Ｂ子「カンニングくらい誰でもやってるよね。何か腹が立つ…。」

私はその２人とはよく話す仲だったのですが、いつまで経っても心のモヤモヤが晴れませんでした。そうこうしているうちに、次の時間が始まりました。私は親友に相談しました。「どうする？　やっぱ真面目さが馬鹿にされたらいかんやろ。先生に言いに行くけん。」　私は親友と２人で言いに行きました。その後、私たちはいじめられるでもなく、もともと学級の中では中心で活動していたので、その時の行動は正解だったと思っています。大体が「つるむ関係」は、この真面目さを馬鹿にし、駆逐します。それは非常に卑怯なことです。この様な関係は、現在の小学校中学校でも見られる現象です。保護者の皆様も経験がありませんか？こんな言葉をかけられたってこと、「なんかっこつけよっとや。」とか「まじめぶんなよ。」　つるんで楽な方に流されるとこの様な発言が出てくるんですよ。上辺だけの関係性でつるんでいるので、互いを切磋琢磨する等の感覚は全くありません。低い価値観でだらけているだけです。どこに行っても、何歳になっても、是々非々の考え方で「真面目」を貫くことはカッコいいことだと私は思います。少なくとも周囲に不快な感情は与えないでしょう。皆さんはどのように考えますか？

シリーズ「自分を語る」#４９

さて、話をもとに戻しまして、強歩会当日は冷え込みました。３月終わりとは言え、阿蘇内牧です。朝の気温は２度でした。しかし、子供達はやる気満々です。テレビ局のニュース取材もあり、「がんばるぞ～！　おー！」の掛け声で出発です。夏のナイトハイクの反省から、今回の強歩では幾つもの対策がありました。まず、班編成を行い班で行動することを基本とすること。次に班にサポートの車を配置すること。この２点を対策として講じました。この頃は「大人も一緒に歩く」という発想が低く、また、思い出作りという発想も低く、「精神面を鍛える」という視点が前面に出た感がありました。夏の経験がそうさせたのですが、思い出作りという視点も半分程あります。

出発。天気は曇り。気温は距離が進むにつれ高くなり、比較的歩きやすいという感じでした。しかし、立野を過ぎるころから足の痛みを訴える子供達が出はじめました。熊本空港を通過する頃には雨が降り始め、合羽を着て歩くことになり、益城町から嘉島町に入る頃には本降りとなり、靴（足）は「ジュチャジュチャ（このニュアンス伝わりますでしょうか？）」という感じです。しかも、安全面を配慮して農免道路をコースに入れているため、後半は直線道路が長く続き、足の痛みと雨、そしてイライラも相まって、班によっては険悪なムードも流れていたようでした。これは想定していたことなので、その都度指導をしました。

「全員でゴールしたくないの？　ゴールした時のことをイメージしてごらん。今何をすべきか、どんなことばかけをすればいいのか見えてくるよ。」

子供達はハッとして、前を向き直し歩き始めました。強歩の後半はこんな場面が多くありましたが、その都度、子供達の心の中では葛藤する場面もあり、それが私のねらいでもありました。雨の中、歩を進める私達。しかし、迷いは無かったですね。ここでストップするなんてことは選択肢にありませんでしたから。正に黙々という表現がピッタリでした。

内牧駅を午前７時に出発して、全員到着は午後６時でした。辺りは真っ暗でしたが、保護者の皆さんの目には涙が光っていました。サポーターの教え子達も、若干足を引き摺りながらも全員コールし、サポートできたかどうかは別として、子供達や保護者の姿、私と歩きながら世間話や人生相談を通して何かを学んでくれたようでした。無事に全員踏破！　を胸に、私は嘉島西小学校を去ることになりました。

（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）